

安曇野民報ほりがね

うすい 泰彦通信

第 6 号

2019年 8月24日発行

安曇野民報ほりがね編集委員会

安曇野市堀金三田1160

TEL・FAX 73-4465

<http://www.usui-yasuhiko.com>

日本共産党の見解をお知らせします。ご意見をお寄せください。



6月議会

一般質問

おいしい学校給食 豊かな食育 「堀金」廃止案は撤回を！

現在安曇野市には、4つの学校給食センターがあります。市は、その内堀金学校給食センターの廃止案を出しました。日井議員は、6月議会の一般質問で、廃止案撤回を迫りました。

質問では、まず、堀金地域の学校給食の伝統が脈々と受け継がれて、現在の堀金学校給食センターの給食文化となっていることと、それを子どもたちの姿から感じている保護者の声、堀金学校給食センター建設の経過等を述べた上で、今後の方向について質しました。

これに対して市長は、記者会見では質問に答えながら、議会での日井議員の質問に2度にわたって答えないという議会軽視の態度を取りました。教育長は、今後の方向



について、5月の「市民説明会を踏まえ、改めて市民説明会を開く」「給食センターの効率的な稼働、持続可能な運営を考える中で今後のあり方を市民とともに考えたい」として、堀金学校給食センター廃止案を撤回しませんでした。さらに、今後のあり方を考える基準を「効率的な稼働、持続可能な運営」とし、安上がりな稼働・運営に置くことを明確にしました。

子ども、調理の現場、農家の三者が豊かな食育をつくることを述べ、市の考えを質しました。

これに対し「センター方式と自校方式にはそれぞれ長短がある」というだけでまともに答えませんでした。そこで、自校方式よりもセンター方式が良い点を、経費節減以外にあげるよう質したところ、教育部長は、答えられませんでした。

一方教育長は、「学校給食はセンター方式による方向を定め運営している。現在の給食センター方式を継続しつつ、各地域でのよりよい取り組みを生かしながら、安曇野市全体の学校給食が等しくよりよいものになるよう努めていきたい」と答えました。

日本共産党安曇野市議団は、堀金を含む4つの給食センターを継続し、市民とともに、子どもにとってより良い給食を目指していく決意です。

〔日井議員の1問1答の概要は2・3頁〕

4センターの歴史を等しく尊重し 堀金給食センター廃止案は撤回を！

**4センターは一制度
丁寧な説明と
対話を重ねていく**

白井 市長の5月定例記者会見の、堀金学校給食センターの廃止について「二市一制度が望ましい」とは。

市長 市民が同じ条件で行政改革や行政サービスを受けるのは、基本である。学校給食センターのあり方については、教育委員会が主体性と責任を持って、市民に丁寧な説明を行い、対話を重ねながら方向性をまとめていくべき課題である。



穂高にある北部学校給食センター

4つの給食センターは、一市一制度に該当する。

**旧町村以来の
給食の歴史と文化
を尊重すべき**

白井 堀金地域の学校給食の歴史は、子どもにとって最善の自校方式を大切にしてきた歴史であり、堀金地域の給食文化となっている。その歴史と文化を尊重することと同様に、北部、中部、南部それぞれの学校給食センターの旧町村における給食の歴史と合併後の議論の上に建設された経過も、等しく尊重すべきだ。そうした立場に立てば、堀金学校給食センターの廃止案は撤回すべきだ。4センターの旧町村以来の歴史、議論の経過をどう捉えているか。

教育長 昭和8、9年ころ温明小学校で行われた、栄養不足の児童を対

象とした牛乳とゆで卵の提供や、昭和10年前後から市内各校で始まった冬のみそ汁給食に起源がある。各町村において地域の子どものために注がれた並々ならぬ努力と人力があつた。それぞれの歴史は尊重し、しっかりと後世に伝え残していくことが、私たちの使命である。旧5町村がそれぞれ給食センターを設置し、その流れの中で新市においては、現在の4センターの体制となった。

**廃止案は
引き下げるか**

白井 市民説明会で堀金学校給食センターについて出された意見は、全て廃止反対だった。「市民説明会での質問、意見を踏まえて聞く」という次の市民説明会では、堀金学校給食センター廃止案を引き下げるか。

教育長 説明会の基本的

**子どもの評価と
意見は必要**

な方針は変えない。

白井 「常に子どもたちの意見や希望を聞き、学校給食センターと学校や児童生徒との双方向の交流、意見交換を続けていく」(6月議会答弁)その中身は、子どもの現状であり、「現状と食育の取り組みについて理解してもらうために開催」(6月議会答弁)する次の市民説明会には、「子どもの評価と意見」(白井議員の配布資料・次頁)のような資料が必要と考



豊科にある中部学校給食センター

**より良い給食
豊かな食育
地産地消の推進
の立場で資料を**

白井 市民説明会の基本的立場は、「子ども・学校、学校給食センター、農家(食料生産者)の3者が相互に関わり合って、よりよい給食をつくり、豊かに食育を進め、地産地消を推進する」と考える。次回の市民説明会に提出する資料も、この立場で準備してもらいたい。

教育部長 説明会の中で要望が出された、仮に統合した場合の改修経費とか、4センター化となった旧町村時代からの歴史や経過、県内の19市の給



三郷にある南部学校給食センター

食センターの設置状況、当然ながら4センターの備品、設備の更新時期、地産地消の現状についてデータ出したい。各センター、学校で取り組んでいる食育の状況についても、改めて資料等をそろえている。(資料準備の立場について明確な答弁なし)



堀金学校給食センター

白井 今後、市民の声を十分に聞いて、慎重に進めるべきと考えるが。

教育部長 次回の市民説明会は、資料が整い次第、広い地域の市民が参加できるように開催したい。(質問に明確に答えない。冒頭市長は「丁寧な説明、対話を重ねながら」と答えている)

「市学校給食理念」

その一部を見ると

- 2 食育の推進…給食の使用材料や献立を通して、児童・生徒や保護者に食の大切さ、食文化、栄養バランスといった『食育』を積極的に推進する
- 3 地産地消の推進…地元食材（県内産）の使用率の向上。米は安曇野産を使用する
- 4 手作り給食の実施…素材から手作り給食に心掛け、だしは自然素材の煮干し、削り節等を使用する

た。ぜひ子どもの声もし
っかり聞いて、同意をと
ってもらいたい。市長。
市長 所管の教育委員会
から答弁させる。
教育長 合併前はそれぞ
れの町村の状況に合わせ
学校給食を提供し、合併
後は学校給食センター4
施設で学校給食を提供し
ている。「安曇野市学校
給食の理念」（左枠内参
照）に基づき、安全・安
心でおいしい給食の提供
に取り組んでいる。

市民説明会を出された
質問、意見を踏まえ、デ
ータ等をそろえ、改めて
市民説明会を開く。
なお、学校給食センタ

1のあり方について、大
人と同じように子どもた
ちに問うことはない。【*
下の枠内参照】学校給食
の内容をよりよくしてい
くための意見や希望は常
に求めている。

「教育的ではなく、 持続可能な運営」 と教育長答弁

白井 廃止案を撤回する
考えはないようだ。子ど
ろに関する支出を抑えるの
は、最後に手をつけるべ
きと考えるが。市長。
市長 教育長、担当部長
から答弁させる。
教育長 学校給食センタ

学校のあり方は、子どもの権利条
約12条の「児童に影響を及ぼす全
ての事項に自己の意見を表明する
権利を確保する」と謳っている。
この場合において、児童の意見は、
その児童の年齢及び成熟度に従っ
て相応の考慮されるものとする。
大人の意見や希望は常に求めてい
る。

1の効率的な稼働、持続
可能な運営を考える中
で、今後のあり方を市民
の皆様とともに考えた
い。堀金学校給食センタ
ーの廃止を掲げて説明を
しているわけではない。
白井 説明会をまた開く
というが、そこでも廃止
反対意見が多く出ること
が予想される。その後ど
のような段階を踏んでい
くのか。
教育部長 （上段教育長
答弁傍線部分と同じ）
白井 期限を切って、そ
れ以降は説明会をやらな
いことはあるのか。
教育部長 今現在考えて
ない。

（2）子どもにとって最善の利益を！ 学校給食の最善の条件は自校方式！

白井 学校給食の今後の
方向を考える一番の基準
は、「子どもにとって最
善の利益。最善の学校給
食の条件は自校方式」と
考えるがいかがか。

学校給食は、食育基本
法でもいうように、子ど
もの食育、心身の成長及
人格の形成に大きな影響
を及ぼし、豊かな人間性
を育んでいく基礎となる
ものだ。子どもにとって
最善のものでなくてはな
らない。自校方式がすぐ
れているのは周知の事実
である。一例を言えば、
おいしい給食を食べると
心が豊かになる。温かい
ものはもちろん、熱いも
の、色のきれいなもの、
時間いっぱい調理ができ
るので一工夫したものか
できる。年齢に合った味
つけや切り方ができる。
細やかな手づくりのよさ
も発揮できる。
市長は、記者会見で「地
産地消がスタンスだ」と



言われた。まさに自校方
式と地産地消は一体だ。
地元の農家が作ったもの
を子どもが食べ、農家と
子どもが交流し、農家は、
地域の子どものためにと
愛情を込めて作り、調理
員もその思いと一緒に農
産物を受け取り、調理す
る。この三者、子ども、
農家、調理の現場が生き
た豊かな食育をつくる。
教育長 センター方式と
自校方式にはそれぞれ長
短がある。現在の給食セ
ンター方式を継続しつ
つ、各地域でのよりよい
取り組みを生かし、市全

体がよりよいものになる
よう努めていきたい。

センター方式の良さは 経費節減のみ

白井 自校方式よりセン
ター方式が良いことを、
経費節減以外に1つでも
あげてもらいたい。
教育部長 自校方式のデ
メリットは、・学校敷地
内に調理場を建設する用
地が必要。購入となれば
費用が必要。・食材搬入
車の搬入経路等の安全確
保が必要。・全校自校給
食にした場合、国の基準
に従うと全学校への栄養
士の配属は多分されな
い。・アレルギー対応が
全部できるか問題にな
る。給食室となると所長
を配置することになる。
・調理員が休んだ場合の
急な対応もある。

白井 センター方式が自
校方式より良いのは、お
金の面だけだとわかる。
【（3）の質問は省略】

「あづみん」の運行見直しにより 利用者増、断り件数減となったのか

白井 昨年10月からの運行見直し（堀金地域の運行間隔の延長、穂高地域の車両増）の評価は。

政策部長 年間の利用者が堀金地域で369人減少したのは、利用回数が非常に多かった方の利用がなかったことと、新規の利用者が増えていないことが主な原因。穂高地域で1048人増加したのは運行車両増による。断り件数は、市全体で322件減少し、堀金地域で120件、穂高地域で90件減少。

堀金地域では、予約がとりやすくなったことと車両の大型化により、利便性の向上が図られた。

この利用者増について、長期的な見方が必要。断り件数が減少し、総体的に利用者数が伸びているので、運行の見直しは一定の効果があった。

実利用者は、平成21年度の3301人が最大

で、平成30年度は2427人と減っている。穂高地域が695人、堀金地域が295人。地域別数は把握していない。昨年度利用回数が最多の576回使っていた方の利用が少なくなると実利用者数も減ってくる。

長い待ち時間の負担軽減策は

白井 堀金地域の運行間隔の延長により、待ち時間が伸び、肉体的負担が増した。暑い夏や寒い冬、外で長時間待つこともある。例えば、①クラクションを鳴らす②利用者の乗車時に次の利用者に連絡する③到着時に車内から操作できるインターホンを希望者に取りつけてもらい利用する。

政策部長 ①道路交通法の規定により鳴らせない。②補助者の同乗が必要のため人員確保が課題。受付センターでは日

難。③無線方式のインターホンは、3000円ほどの物もある。調査したい。

より使いやすい「あづみん」に

白井 あづみんを使い易くするとともに、アピールしないと利用者を増やせない

あづみん・定時定路線 月別延べ利用者数 (10月～3月)									
年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10～3月	前年比	前年比
2014	6345	5873	7635	6553	6863	8113	44948	2307	
2015	7312	7060	7475	5380	6030	7631	42338	-2260	-145
2016	7257	7223	6950	6306	6865	7611	42340	-143	-164
2017	7484	7174	7034	6496	6745	7438	44137	-1633	-41
2018	7413	7465	7438	6708	6627	7438	44137	+4833	-108
穂高地域									
2016	1773	1787	1719	1466	1674	1856	10633	756	
2017	1360	1833	1788	1463	1404	1820	10133	-150	-6
2018	2104	2000	1840	1306	1372	1847	11377	+1244	-10
堀金地域									
2016	1000	1000	954	925	964	1054	5630	340	
2017	1008	970	1031	907	772	1018	5634	-203	-14
2018	104	971	837	754	822	832	5510	-204	-50
豊田・三郷・明神地域									
2016	4473	4409	4377	3910	4247	4731	26057	1494	
2017	4317	4070	4510	3726	4069	4575	25037	150	4
2018	4714	4504	4532	3345	4013	4527	25630	+423	-53

*2016年10月から運行変更（堀金・穂高1号線）のため、10月以降のみが適用された。
*延べ利用者数の減少傾向の中で、2018年度の穂高1号線は、運行変更により穂高地域の延べ利用者数が大幅に増加し、全体の減少傾向が緩和された。運行変更により、堀金が減少したのは、利用回数が非常に多かった方の利用がなかったことと、新規の利用者が増えていないことが主な原因（部長答弁）。
*実利用者数は、市全体として減少傾向にあるが、延べ利用者数が増えた年度でも2018年度は減少した。

ない。とりわけ高齢者の運転免許の返納促進のために、自家用車に代わる交通手段の確保は緊急の課題だ。車の維持費の負担が重く、車を手放したい要望もある。定時定路線・巡回バスの整備は、**政策部長** 引き続き高齢者中心に広報等を行う。・70歳以上の高齢者に改めてダイレクトメール送付する・出前講座での勉強会、新生児児童委員やケアマネージャー、生活支援コーディネーターとの情報公開により利用支援を願う・免許返納者へのあづみん回数券交付について、安曇野警察署から情報提供を願う。

定時定路線について、通勤、通学の充実に向け、引き続き地域公共交通協議会の部会で検討する。特に大糸線の西側の定時定路線の導入について、市内の小・中学校で運行しているスクールバスの併用による新路線設定や、地元高校の要望も聞いての研究を進めたい。巡回バスについても、並行して検討したい。

検討結果と今後の予定は

白井 課題や要望について、地域公共交通会議兼協議会での検討状況及び予定について伺う。

政策部長 ・簡便な予約方法：次期システム更新に向け研究する。・運行時間の延長：タクシー事業圧迫の可能性により未実施。・土日の運行：医療機関への移動を検討した。休日には需要が少ない。・乗り継ぎ料金を取らない：検討した。運賃の見直しの際検討する。・要望を伝え易くする工夫：車内に意見用紙を置く事を検討をする。

来年度、公共交通網形成計画の中間評価実施予定。利用者アンケートで利便性の向上に努める。

